

菊地康正サククス、フルート道場 設立、教育理念

菊地康正（キクチコウセイ）サククス、フルート道場は、プロのサククス、フルート奏者である菊地康正の 40 年以上に渡る、国内外の超一流演奏家、アーティストの皆さんとの共演という貴重な経験、松本英彦という戦後最大のインプロヴァイザーの教えと薫陶、フルートの神と呼ばれる、ジェームスゴールウェイ氏との交流、インナーギャラクシーオーケストラを率いる作編曲家の三木敏悟の音楽理論を直接継承し、真に豊かな音楽性と、知識、技能、人間性を備えたアマチュア音楽愛好者、演奏家、作編曲家を生みだし、日本の音楽文化の向上に貢献し、日本人の心を豊かにする事を目指します。

西洋音楽の伝統と、アフリカ系アメリカ人のリズム感音楽性によって成立したジャズは、現代のポピュラー音楽の母胎となりました。西洋では、音楽が複雑化するに連れて 200 年前から、作曲家と演奏家は分離して行きました。

100 年前から西洋音楽を輸入した日本は、古代の中国文明を取り入れて、漢字からひらがなカタカナ、服装から法律まで日本風に消化したように、また明治時代に西洋文化を、和魂洋才の精神で上手に取り入れてきたように、柔軟に取り入れてきました。日本のように、クラシックからジャズロックラテン音楽まで上手く取り入れる国は世界にも類はありません。

しかしながら、やはりそれらは、よその国の音楽であり、その本質に迫るところまで行く事はなかなか困難だといえましょう。楽器の演奏に関しては、プロアマを問わず、楽譜さえうまく読めれば良いという、調性感覚、和声感覚の欠落した、表面だけをなぞる段階のかたが多いのが現状です。

既存の教育では、固定読み教育により、コードと言う概念もそれを聞き取る耳の能力も欠落していたので、現代のポピュラー音楽、ジャズ、ロックに対応できないことが明らかになり、最近の音楽の教科書には、ビートルズやユーミン、武満徹の音楽の他、ようやくコード表記が取り入れられ、遅ればせながら時代の流れに沿ってきたようです。

実は、相対音感、コードの概念なしには、実はクラシック音楽も正しく理解し味わう事はできないのです。なぜなら、クラシック音楽も前衛的なものを除けば、コードや調性で出来ているからです。その証拠に、アドリブを学びたいと多くの音大出のフルート講師が続々と菊地道場に詰めかけています。

クラシック、ポピュラー音楽に限らず、調性、和音の進行を感じる事ができるためには、相対音感並びに、コード進行感の感覚を付けることが必要で、それには、入り口として移動読みが有利と考えますが、固定読みの方でも正しい手順で訓練すれば、それは達成できます。

歌手が、知っている曲を、半音上げようが下げようが完璧にストレスなく歌えるように、管楽器奏者もピアニストも、正しい手順で相対的な音感を磨けば、それは決して不可能ではありません。またその訓練によって、音楽を正しく理解することが出来、深く味わうことが出来、楽しさは劇的に倍増します。

菊地康正サクソフ、フルート道場では、楽器の基礎技術の習得をしつつ、日本、世界の名曲、ジャズ、ポピュラーのスタンダードナンバーに親しみながら、聴音、ソルフェージュ、和音の聞き取り、コード進行感の育成を目指し、調性、ドミナント感覚、移調奏の訓練を通して、ピアニストやギタリストのようなコード感覚、歌手の歌心を持った楽器奏者、作編曲者の育成を目指します。

2017年 菊地康正